

1 情勢報告

J A 津野山ナス部会で環境チェックを行いました



J A 津野山ナス部会は、ISO 1 4 0 0 1 認証取得後、環境ISO実践グループとして取り組んでおり、7月29日に梶原町、30日に津野町で環境チェックを行いました。環境チェックは、ナス部会ISO推進委員を中心に、J A、環境保全型畑作振興センター、振興センター職員が同行し、全戸で、環境実践計画書での目標（廃ビニールなどの処理、農薬の保管状態など）の確認等を行いました。同時にGAPにかかる点検シート（「エコレンジャー点検シート」）のチェックも農家自身にさせていただきました。

毎年行っていますが、農家の皆さんが様々な工夫をして環境に優しい農業を実践していることが確認出来ました。

振興センターはこれからもナス部会の取り組みを支援していきます。

「大野見米エコ研究会」が発足し、ブランド化を推進



8月4日に、大野見米エコ研究会（農家27名・役場3名・農協2名・振興センター2名）の臨時総会が開かれ、会長、副会長が農家代表により決まり、組織的に動きだしました。

会長から大野見米のブランド化を話しあいで進めることを提起し、お互いが了承しました。また、ブランド化を進めるに体制づくりとして「一元管理販売組織を設立する」、「既往の個別販売をネットワーク化する」等の要望が出されました。そこで、事務局は一元管理販売の勉強会を提案し、8月末に開くことになりました。

振興センターは、先進地の情報提供等で支援を進めていきます。

第3回『大野見地域農業の将来を考える意見交換会』開催



8月3日、JA四万十大野見支所において、農家21名、関係機関30名で意見交換会が開かれました。中土佐町長、JA四万十組合長参加で、農事組合法人ビレッジ影野の浜田正三さんから集落営農の取組を発表していただき、中土佐町から集落営農・大野見米のブランド化について、JA四万十からカントリーエレベーター利用・無人ヘリ防除・園芸作物（ニラ、地消地産品目）の推進等についてそれぞれ報告・提案があり、その後活発な意見交換がもたれました。

今後も振興センターでは、話し合いの場づくり、集落営農、大野見米のブランド化、園芸作物の振興等進めていきます。

1 情勢報告

「ミョウガの市場事故」対策を確認しました。



J A土佐くろしおミョウガ部会は、7月20～28日にかけて大間・浦ノ内・上ノ加江の3集出荷場において延べ11回の出荷目慣らし会を開催しました。

昨年の夏、市場での腐敗事故により産地の信用を落とした反省から、「腐敗対策」の徹底を図ることが目的でした。

J A販売課からは選果選別の徹底を説明し、振興センターからは栽培管理の注意点を周知しました。その後、J A営農課が対策の実施状況を聞き取り、参加農家には「腐敗対策」を再度確認してもらいました。

振興センターはJ Aと連携して腐敗対策技術を普及しています。

J A土佐くろしおでシトウ・ピーマン類のI P M技術勉強会を開催



J A土佐くろしおでは、8月5日にはピーマン部会で、8月6日にはハウスシトウ部会で、I P M技術の勉強会を開催しました。同部会では、昨年、「スワルスキーカブリダニ」と「タイリクヒメハナカメムシ」を中心とした実証ほを設置し、1年間を通じて検討してきました。実証ほの成績は良好で、多くの部会員が興味を示しています。今回の勉強会では、昨年度の反省と次年度のI P M技術の取組方向について、参加者全員で検討しました。

次園芸年度は、天敵導入希望農家が多くなっています。導入農家に失敗させないための指導体制づくりが急務であり、現在、J Aと振興センターが中心となって検討しています。